

第11回埼玉県新型コロナウイルス感染症専門家会議 概要

1. 日時：令和2年7月7日（火）16：00～18：00
2. 会場：危機管理防災センター本部会議室
3. 委員（敬称略 五十音順）

岡部 信彦	川崎市健康安全研究所 所長	【WEB参加】
金井 忠男	埼玉県医師会 会長	
川名 明彦	防衛医科大学校 教授	
坂木 晴世	国立病院機構西埼玉中央病院専門看護師	
松田 久美子	埼玉県看護協会 会長	
光武 耕太郎	埼玉医科大学国際医療センター 教授	
4. 県側参加者

大野 元裕	知事
森尾 博之	危機管理防災部長
関本 建二	保健医療部長
星 永進	保健医療部 参事
本多 麻夫	保健医療部 参事
岸本 剛	衛生研究所 副所長

5. 主な意見

ア 現状の分析・評価

- 最近の新規陽性者数の増加については、かなり警戒すべき水準になった。
(川名委員)
- 新規陽性者の数としては非常に増えてきているが4月の時点とは違って軽症の方が多い。(光武委員)
- 現在の陽性者は若い方が中心だが、高齢者の方々に伝播させたくない。院内感染や施設内感染の対策としてはウイルスを持ち込まないよう感染対策を徹底していただきたい。家族内感染に関しては、身内の方とか高齢者と接する職業の方には、感染の危険があるところへ行くのは控えていただきたいというメッセージをより強く出していくと良い。(坂木委員)
- 第1波、第2波という言葉が良く使われるが、明確な定義はない。現状が第2波か否かということを経験するのではなく、これからの再拡大への警戒が重要である。(岡部委員)

【県の対応】

- 福祉施設職員を対象とした新型コロナウイルス感染症対策の研修動画配信を行う。(7月8日開催 第23回新型コロナウイルス対策本部会議において報告。)
- 医療機関や福祉施設に対し、埼玉県クラスター対策チーム(COVMAT)を派遣した。(令和2年8月5日現在、8回派遣)

イ 外出自粛等再要請について

- 非常に多くの新規陽性者が出ているが、軽症者が多いという点などで以前とは違う。そうした中で、以前と同様の包括的な外出自粛等の要請は行うべきではない。(金井委員)
- 4月の包括的な自粛要請とは違った方向で対策をとるべき。陽性者数がさらに増えれば、重症者の方も出てくる可能性があるため、注意喚起を十分に示して、一方では日常の行為が過度に委縮しすぎない注意をしていくことが必要である。(岡部委員)

- 陽性者が学校内で発生した時に、1人～2人の陽性者が出た時に、そのクラスを休みにすることはやむを得ないが、それをきっかけにして地域全体の学校、あるいは県内全ての学校を休校にしてはならない。(岡部委員)
- 夜の街関係や若い世代の方など、ある程度対象が特定できているので、そこにフォーカスを当てることで、全体的な活動抑制をしなくても良いような対策を考えていかなければならない。(川名委員)
- 真面目に対策をして、社会活動を行っている施設を抑制することは避けなければならない。学校など、絶対に必要な部分を守りながらコントロールしなければならない。(川名委員)

【県の対応】

- 県内の感染状況及び委員の意見を踏まえ、令和2年7月8日、県民及び事業者の皆様に対して、以下のとおり協力要請を行った。(7月8日開催第23回新型コロナウイルス対策本部会議において決定。)

(県民の皆様に対して)

- ・ 夜の繁華街において感染症対策が十分に取られていない店の利用回避(新型インフルエンザ等対策特別措置法第24条第9項に基づく協力要請)
- ・ 密閉・密集・密接の「3つの密」の回避
- ・ 大人数での会食の自粛
- ・ 高齢者や基礎疾患がある方の都内への不要不急の外出自粛

(事業者の皆様に対して)

- ・ 彩の国「新しい生活様式」安心宣言及び業界のガイドラインを活用し、感染症対策を徹底(新型インフルエンザ等対策特別措置法第24条第9項に基づく協力要請)

ウ 埼玉県LINEコロナお知らせシステムについて

- 埼玉県LINEコロナお知らせシステムと国のCOCOAを併用して活用した方がより情報が得られると思う。(岡部委員)
- 夜の街関連のお店に、是非これを入れていただくことを勧めていただきたい。(川名委員)

【県の対応】

- 7月10日(金)から埼玉県LINEコロナお知らせシステムの運用を開始

した。

- 委員の御意見を踏まえ、国のCOCOAと併用する形で普及させていく。
- 夜の街関連の店舗を含めた幅広い事業者に活用していただけるよう、県庁内にプロジェクトチームを設置し、全庁体制で積極的なPR活動を行っていく。